

【審査員・講評】（敬称略、順不同）

喜多俊之（審査委員長）、内藤廣、小泉誠、永山祐子、の4氏を審査員として厳正なる審査を行いました。審査講評をここでご紹介いたします。

喜多 俊之 審査委員長（プロダクトデザイナー・LIVING & DESIGN 総合プロデューサー）

世界中がコロナの影響から解放された雰囲気の中、今年の家具コンペも昨年に続き、多くの優秀な作品の応募が寄せられました。入選作品のそれぞれから日本における新しい時代の始まりが感じられました。数多くのクリエイティブな作品の中から選ばれた作品の多くには、市場にあるものとは異なる新しい視点が目立った。木材という素材の使い方をもう一度、考えることから取り組んだ作品、技術を加えることで次への可能性を追求した作品、伝統の要素を加えてのデザインに対する可能性を感じる作品など、それぞれに時代性とクリエイティブな作者の個性など、切り口が大きく広がった印象であった。グランプリを始め、入賞作品、そして入選作品にも木の国らしいバラエティと創造性が溢れ、素材の特徴などを捉えた、世界レベルと云える優秀な作品が集まつた今年のコンペであった。

内藤廣（建築家・東京大学名誉教授）

ずいぶん経験を積んできたつもりですが、木の性質はいまだに分かりきらないところがあります。特に暮らしの身近なところにある家具では、思わぬ使われ方で壊れては困ります。日常利用の中での危険も考えねばなりません。それ故、私の審査の判断基準は、木の使い方を追い込み過ぎないこと、にしています。ある程度ゆとりを持たせるくらいの大らかな使い方が良いと思っています。

上位に残った作品は、その意味で、木の優しさ、温かさ、柔らかさ、が際立つものばかりだったので、良い結果が得られたと思っています。グランプリのEnvelopは、背面を一本で支えるという、ありそうでなかつた新しい形でした。再利用にアイデアを求めた金賞の廃材椅子は、しぶとい感じがします。銀賞の150stoolsは、LEGOの木材版。こんな家具で育つ子供は幸せですね。銅賞のBand Chairは、木のぬくもりを生かした新しい座り心地が樂しみです。個人的には、入選したdecoboco、この考え方には家具に留まらずどこまでも拡張できそうで面白いと思いました。

【お問合せ】

株式会社フレーズクレイズ 家具コンペ2023事務局 frazecraze.publish@gmail.com

※課題および審査についての質疑応答、ならびにお電話での対応はいたしかねますので、予めご了承ください。

小泉誠（家具デザイナー）

今回多くの家具を「木材を使った家具らしさ」を見つけながらじっくりと拝見しました。このコンペも回を重ねるごとに、デザインという思考に向かい合ったものが増えてきていて、コンペ自体が成長していることを感じました。また、木の特性を活かした形も数多く「木の家具」らしいデザインが増えてきています。反面、安易に成型合板を使い構造を誤魔化した形も増え、結果的に魅力が薄れていくものも多く見受けられました。今回受賞した家具は、ただ単に形が美しいということではなく、素材・環境・関係・現象・感覚など、明確な目的に向けてデザインしたものが多く、本来のデザインのあり方を改めて感じることができました。

永山祐子（建築家）

今までに世界中で沢山の木製家具がデザインされ、そして私たちの生活の中で使われてきた。その中で新しい提案をすることはとても難しいと感じる。それはどんなデザイン分野でも同じかもしれない。その時にデザインの拠り所となるのは私たちの生活スタイルの変化、そしてマテリアルへの認識の変化ではないかと感じている。その家具が使われるシチュエーションが鮮やかに思い浮かび、そこに魅力的なアクティビティ、コミュニティが生まれているか、廃材利用、木の粘りをうまく活用するなどマテリアルの考え方に対する新しさがあり魅力的なプロダクトとして表現されているなどがとても重要な審査のポイントだった。その部分が突出した作品が受賞するに至った。毎回このコンペの醍醐味は実物展示である。提案書を超えた物の力強さを目の当たりにするとこれからもデザインが進化していくのを感じ、そのパワーから元気をもらうのである。実物を見るのを楽しみにしている。

木材を使った家具のデザインコンペ

Wood Furniture
Design Competition 2023

主催：東京インターナショナル ギフト・ショー LIVING&DESIGN

趣旨

私達の地球には多くの森が散在しています。日本にも国土の約70%、森が存在しています。森の木々から、住まいや家具などに使われるまでは、伝統的な匠達の知恵が活かされています。そして、そのプロセスと技術からエコ文化の土壤が創られてきました。この豊富な資源を活用する手立てとして、培われた技術にデザインの力を加えて、広く世界の人々に知ってもらえるオリジナル性の高い、高品質な製品づくりを目指したいものです。このたび、過去6回に引き続き、木材家具のコンペを開催いたしました。

【テーマ】

「木材を使った家具」をテーマに、未発表の作品（キャビネット、テーブル等）を対象とし、アイデアだけではなく、実際に制作可能な提案を募集しました。針葉樹あるいは広葉樹のどちらを用いるか、また、木材の生産地域などについては問いませんでしたが、各素材の特性を活かした作品を期待しました。

【スケジュール・審査】

2023年4月に募集を開始し、169点のエントリーから厳正な審査で以下を選定いたしました。

・16点の入選作品、うち4点の入賞作品（本スペースにて展示）

Wood Furniture Design Competition 2023

Inviting designers to join the prize contest under the theme "furniture designed with wood," such as the ones featuring the characteristics of coniferous or deciduous trees. The judges are KITA Toshiyuki, NAITO Hiroshi, KOIZUMI Makoto, and NAGAYAMA Yuko. The prize-winning works are exhibited.

グランプリ

Envelop

松橋 孝之



Envelop
Rocking chair

金賞

廃材椅子

浅倉 有希
永木 伶奈
鳥居 隼

廃材椅子

廃材とみるか、価値があるとみるか。

また廃材のよう一度利用され、やがて廃材となる色も長さも異なった不揃いの木材たち。

作る前から解体後の余地を考えてあれば、これらは廃材と呼ばれなかつかもしれない。

しかし、私たちはこれらの廃材に再び価値を見出し、廃材椅子としての第2人生を与える。

そして廃材椅子は引やネジを一切使わず、再び解して如何に生まれ変わるために余地を持っている。



廃材とみるか、価値があるとみるか。
また廃材のよう一度利用され、やがて廃材となる色も長さも異なった不揃いの木材たち。
作る前から解体後の余地を考えてあれば、これらは廃材と呼ばれなかつかもしれない。
しかし、私たちはこれらの廃材に再び価値を見出し、廃材椅子としての第2人生を与える。
そして廃材椅子は引やネジを一切使わず、再び解して如何に生まれ変わるために余地を持っている。
相欠きにより十分な剛性を有することで、細い断面で安定することで、構造的に安定する。

銀賞

150stools

吉田峻晟

銅賞

Band Chair

山崎 輝
小牧 遊太郎



150stools

大人と子供のための木育スツール

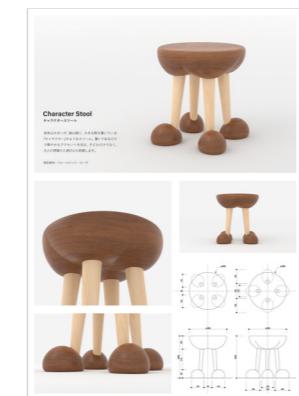


入選

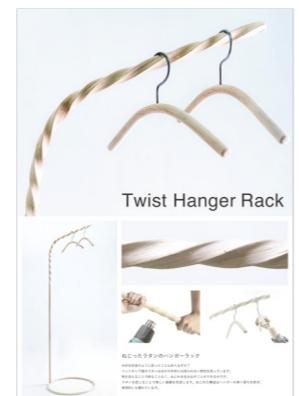
[順不同]



decoboco | 田仲 勇介 舟津 翔大



Character Stool | 野原 輝太



Twist Hanger Rack | 鍋梨 世知
ベレス 矢田 舞 西野 杏望

入選

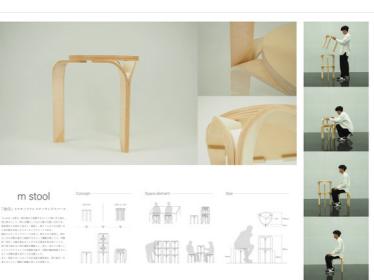
[順不同]



CRANE STOOL | 小田 晃史



THE CHAIR | 本杉 一輝



m stool | 碓井 厚希



SUNAO | 小柳津 仁



KeeL chair | 奥山 香菜子 大谷 拓嗣



TETRA STOOL | 秋谷 桃子



KOKO | 田邊耕治



KAGOISU | 豊田 亮



bark chair | 前田 大輔